

馬毛島基地(仮称)建設事業に係る環境影響評価準備書(案)の概要について

【事業概要】

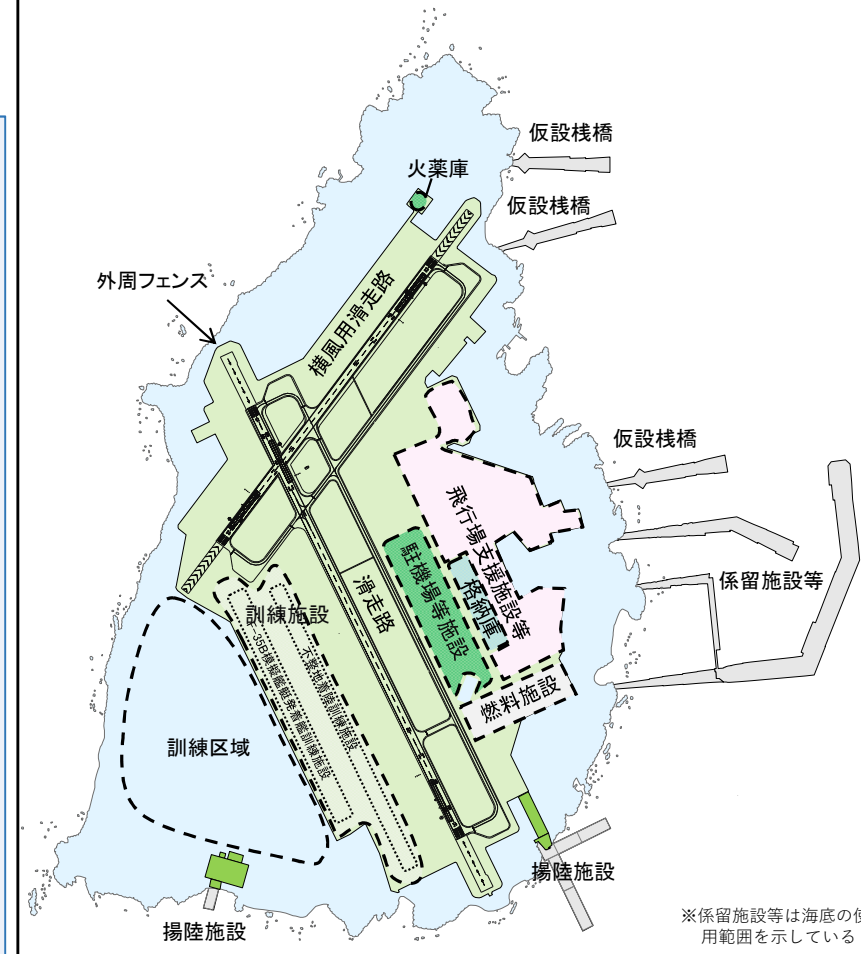
- 対象事業の種類：飛行場及びその施設の設置
- 対象事業の規模：主滑走路2,450m、横風用滑走路1,830m
- 使用を予定する航空機の種類：
 - [自衛隊機] F-15, F-2, F-35A, F-35B, C-130, C-2, US-2, KC-767(後継機KC-46), CH-47, UH-60, V-22 等
 - [米軍機] F/A-18, E/A-18, E-2, C-2 等
- 工事工程：全体として概ね4年程度の工期を想定しています。ただし、早期の運用開始を目指し、最低限必要となる施設については先行して完成させることを目指します。

【準備書の構成】

準備書においては、事業の内容のほか、19項目の環境要素に対する調査結果、予測・評価結果(工事の実施、飛行場施設の存在・供用)、環境保全措置、事後調査等について記載しています。

| | |
|------|-------------------------------------|
| 第1章 | 事業者の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地 |
| 第2章 | 対象事業の目的及び内容 |
| 第3章 | 対象事業が実施されるべき区域及びその周囲の概況 |
| 第4章 | 方法書に対する意見及び事業者の見解 |
| 第5章 | 環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法 |
| 第6章 | 調査結果の概要並びに予測及び評価の結果 |
| 6.1 | 予測の前提 |
| 6.2 | 大気質 |
| 6.3 | 騒音 |
| 6.4 | 低周波音 |
| 6.5 | 振動 |
| 6.6 | 水の汚れ |
| 6.7 | 土砂による水の濁り |
| 6.8 | 底質 |
| 6.9 | 流況 |
| 6.10 | 電波障害 |
| 6.11 | 陸域動物 |
| 6.12 | 海域動物 |
| 6.13 | 陸域植物 |
| 6.14 | 海域植物 |
| 6.15 | 陸域生態系 |
| 6.16 | 海域生態系 |
| 6.17 | 景観 |
| 6.18 | 人と自然との触れ合いの活動の場 |
| 6.19 | 廃棄物等 |
| 6.20 | 温室効果ガス等 |
| 第7章 | 環境保全措置 |
| 第8章 | 事後調査 |
| 第9章 | 総合評価 |
| 第10章 | 環境影響評価を委託された者の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地 |

【施設全体配置図】



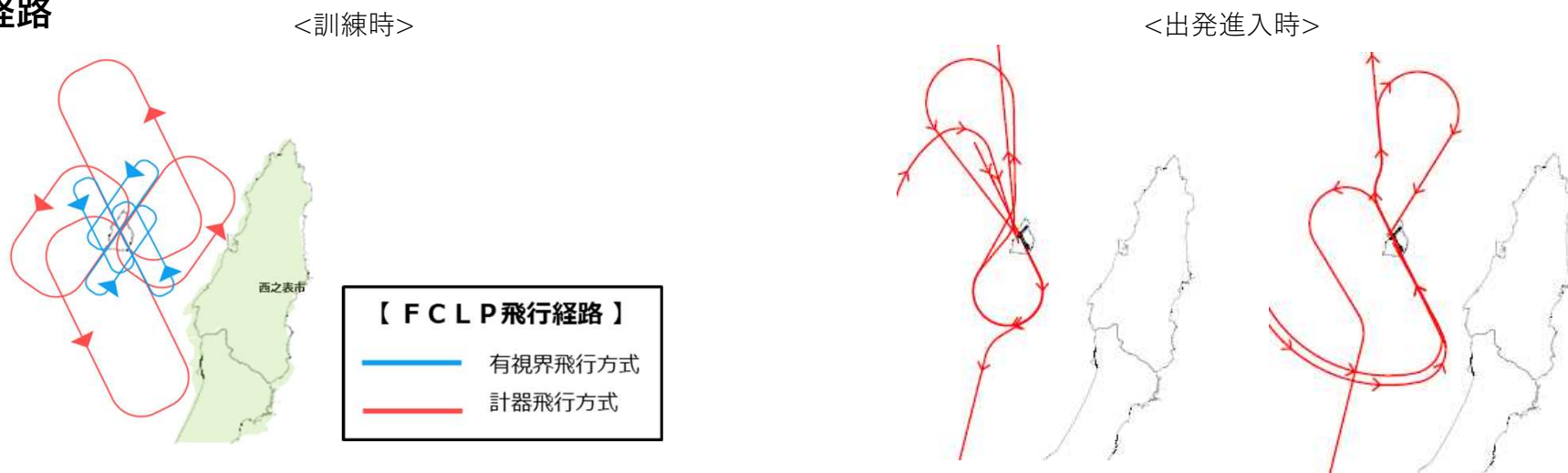
馬毛島基地(仮称)建設事業に係る環境影響評価準備書(案)の概要について

1. 航空機騒音・低周波音

■ 飛行回数

| 区分 | 主な機種 | 年間の飛行回数 | | | |
|-----|--|----------|----------|---------|-------|
| | | 計 | 日中 | 夕方 | 夜間 |
| 自衛隊 | F-15、F-2、F-35A、F-35B、 C-130、C-2、US-2、KC-767(後継機KC-46)、 CH-47、UH-60、V-22等 | 約23,500回 | 約18,100回 | 約5,400回 | — |
| 米軍 | FA-18、EA-18、E-2、C-2等 | 約5,400回 | 約3,700回 | 約1,100回 | 約600回 |

■ 飛行経路



■ 予測結果

【航空機騒音】 航空機の運航に伴う騒音について、**時間帯補正等価騒音レベル(Lden)** は35.1dB～54.4dBであり、**全ての予測地点で、環境基準相当値(57dB)を下回ります。**

【低周波音】 航空機の運航に伴う低周波音(G特性音圧レベル)は、**全ての予測地点で、指標となる値を下回ります。**

2. 馬毛島のニホンジカ

【調査結果】

- ・ 定点観察及び踏査による直接観察やセンサーカメラを用いた調査により、島内に**700~1,000 個体程度が生息**していると推定しました。
- ・ シカはシバ群落やススキ群落等の草原で多く観察され、餌として主にシバを利用しています。

【予測結果】

- ・ **餌資源量等の変化によって個体数が推移**すると予測しました。
- ・ 生息範囲の変化により、採餌状況が変化する可能性があること、それに伴い植生が変化する可能性があることなどから、**個体数の推移の予測には不確実性が残ります。** ⇒ **個体数モニタリングを実施**します。

【主な環境保全措置】

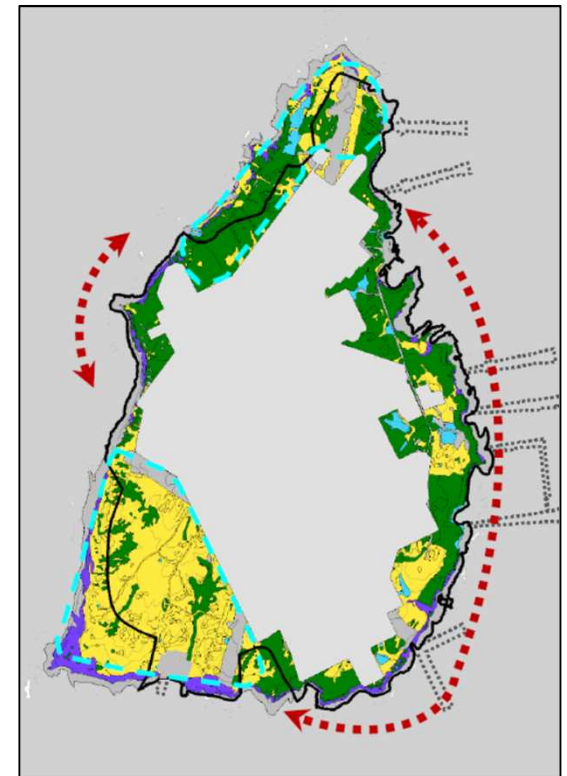
- ・ 島北西部の樹林地と南西部のまとまった草地をシカの生息地の中心(コアエリア)として残し、島の周縁部には移動の支障となるような構造物は設置しないことでシカの分布域の連続性(コリドー)を確保します。
- ・ 工事期間中は**仮設柵を馬毛島南北に設置**し、その西側は改変を行わない「保全区域」とし、**仮設柵には「ワンウェイゲート」を設置**し、シカが工事が行われる島の東側から保全区域への移動を常時可能にします。
- ・ シカの**生息環境を改善**するため、**裸地の緑化**を実施します。



ワンウェイゲート(イメージ)



■ 供用時のシカの分布域概況

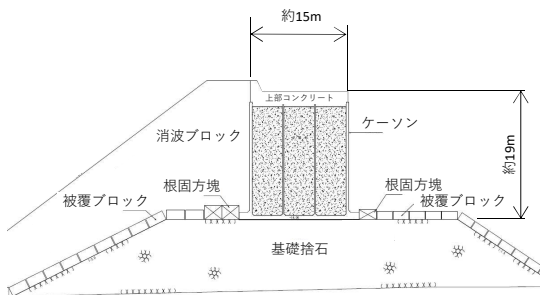
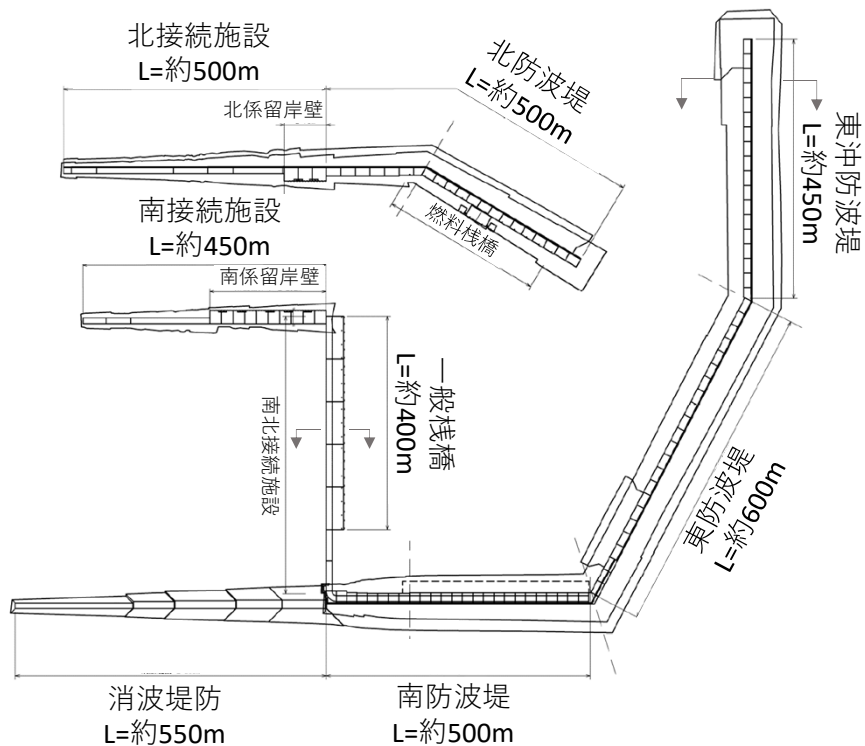


- フェンスで囲われる範囲
- コアエリアとして機能する範囲
- ◀---▶ コリドーとして機能する範囲

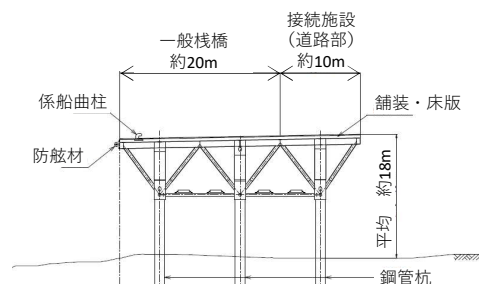
馬毛島基地(仮称)建設事業に係る環境影響評価準備書(案)の概要について

3. 港湾施設

【係留施設等】



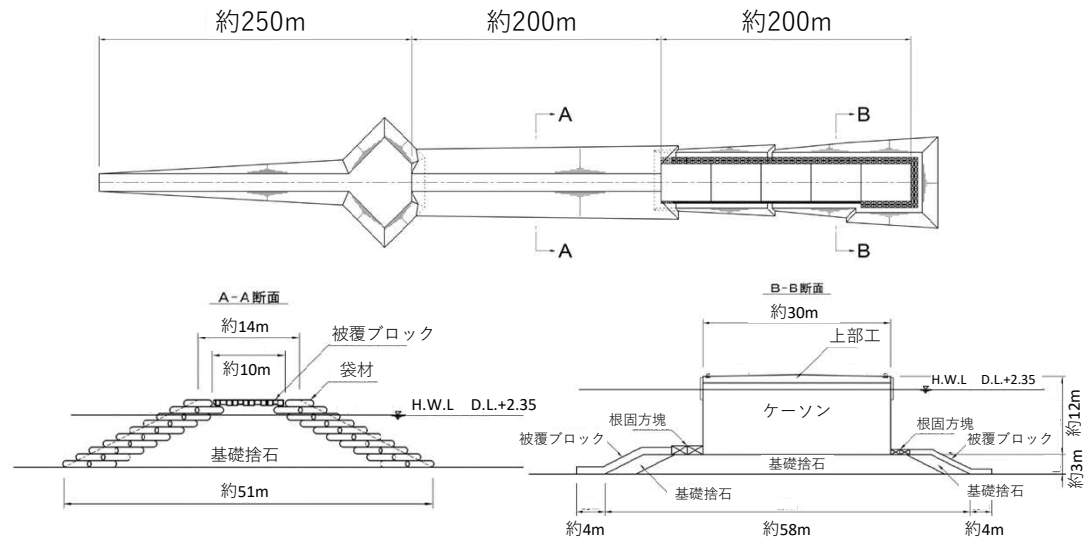
■東沖防波堤標準断面図



■一般栈橋標準断面図

※本図面は、現時点における計画であり、現場条件等により変更されることがあります

【仮設栈橋】



※北側から2番目の仮設栈橋を示している

※本図面は、現時点における計画であり、現場条件等により変更されることがあります

【予測結果】

- ・ 流況の変化は港湾施設の近傍に限られ、大きく変化しないと予測しました。
- ・ 水の濁りについて、水産用水基準値（寄与濃度 2mg/L）を超える濁りが生じる範囲は、工事実施箇所周辺の局所的な範囲であると予測しました。

【主な環境保全措置】

- ・ 海域動植物等に関しては、海藻類が着生しやすいような消波ブロックを用いることなどを検討しています。
- ・ 仮設栈橋の基礎捨石については、サンゴ類や海藻類の付着基盤や底生動物の生息環境として機能するように、仮設栈橋撤去後も残置します。